

結いの手通信

～飯岡看護～

株式会社グッドナース

令和7年 3月 1日



寒さの中にも少しずつ春の暖かい日差しが感じられるようになってきました。2月に結いの手ホームページも新しくなり、また、4月には3号館のオープンも控えています。新しいスタッフを迎え、新たな風を受けながら、結いの手らしさを生かした関わりをしていきたいと思っています。



パーキンソン病が主病にあり結いの手飯岡で過ごしていましたが、脳出血を起こし医師からはあと数日と診断を受けました。娘様へ状態を報告すると、驚きと動揺する様子がみられましたが、一人娘で母の最期についていたいの希望があり数日昼夜付き添いしていました。声掛けに口を開ける様子が見られ、不安を感じさせないようにスタッフが訪室して声を掛けたり、様子を見に訪室していく中で本人から「帰りたい」との希望が聞かれるようになりました。娘様へ伝えると「実は私も言われていたんですけどこの状態では無理かと思っていました。是非お願いしたいです」と外出の意向がありました。バイタルサインも安定しており、症状が落ち着いている今だからこそ外出出来るのではないかと看護師間で話し合い、主治医の許可を得て、当日は施設車両で看護師同乗のもと娘様と一緒に過ごしていた自宅へ1時間ほど帰宅しました。家では親族も集まり、本人も声掛けに口を開けてお話しする様子もあり、いい時間が過ごせましたと娘様より話がありました。

結いの手は本人や家族の想いに寄り添う事を大切にしています。今回のケースでは脳出血を起こす前の元気な頃から本人とたくさん関わり、信頼関係があったからこそ「帰りたい」と思いを表出してくれたのだと思います。希望を元に看護師間で実行に移せるのか話し合い、外部との調整を経て今回は外出する事が出来ました。入居時や普段の面会時などにお話させて頂く中で本人や家族の想いに寄り添ったケースを増やしていければいいなとスタッフ一同考えております。

文責：吉田美里



緩和ケアの認定看護師と結いの手にお世話になり1年がたち日々のケアの中で寄り添っていければと思っています。施設で研修を行っていますが他の施設からも声をかけていただき終末期について事例を交えながらお話をさせていただいたりしています。看護の一人として最後のその時間までその人らしく生活できるようにご家族の方とも相談しながら良い時間を過ごせるように寄り添っていきたくと思っています。亡くなってしまったときにはその人との思い出を語れるような空間がつかれるようにしていきたいと思っています。



緩和ケア認定看護師
浅沼有香